

平成25年度
東海市環境基本計画年次報告書

「未来につなぐ 美しいふるさと東海」の
実現に向けて

平成26年12月
東 海 市

目 次

1 市民、事業者、NPOと市の協働による計画推進

(1) 各部会の活動報告（平成25年度）

・ 社会環境部会	1
・ 生活環境部会	3
・ 廃棄物・リサイクル部会	5

(2) 各部会の推進事業の状況..... 7

2 成果指標の評価について

(1) 成果指標一覧表

13

(2) 成果指標評価表

柱1 社会環境

・ 分野A 大気・ばいじん	14
・ 分野B 水質	15
・ 分野C 騒音・振動	17
・ 分野D 悪臭等	18

柱2 生活環境

・ 分野E 自然	19
・ 分野F 公園・緑地・景観	20
・ 分野G 環境美化	21
・ 分野H 交通	22

柱3	廃棄物・リサイクル	
・	分野I リデュース・リユース	23
・	分野J リサイクル・適正処理	24
柱4	共通基盤	
・	分野K 地球	26
・	分野L 環境学習・人づくり	27

3 参考資料

(1)	環境基本計画推進委員会委員名簿	28
(2)	東海市環境基本計画について	29

1 市民、事業者、NPOと市の協働による計画推進

(1) 各部会の活動報告

社会環境部会活動報告（平成25年度）

部会長 田中成郎

1 活動内容総括

平成19年度の環境基本計画スタート以来、当部会では「水質」分野を重点に、河川・ため池水質浄化事業の一環として環境浄化微生物の配布を行っております。

しかし、活動分野は「水質」のほかに、「大気・ばいじん」「騒音・振動」「悪臭等」があります。特に「大気・ばいじん」は本市にとって重要な分野であり、最大の関心事であると委員の認識は一致しております。そこで、市民・行政・事業者が協働で取り組むことの難しいこの分野で実施可能な事業を協議検討し、新日鐵住金(株)名古屋製鐵所のご協力の元「大気・ばいじん」に関するエコスクールを開催いたしました。

平成26年度は、さらに地球環境全般に目を向け、東邦ガス(株)ガスエネルギー館のご協力の元「地球の環境と天然ガス～超低温の世界を体験～」をテーマに開催を予定しております。

また、「水質」分野の活動も継続することにいたしました。

2 河川・ため池水質浄化事業の主な活動内容

平成20年度から実施している河川・ため池水質浄化事業を継続し、環境浄化微生物の市民への無料配布や公共施設での使用により、河川等の水質浄化を目指しました。

① 市民への無料配布（705本/月）

【配付場所】

市役所1階北玄関・しあわせ村玄関・文化センター事務室入口前

※ 毎月1日・15日配布

② 公共施設での使用（295本/月）

【使用公共施設】

しあわせ村、清掃センター、文化センター、明倫調理場、保育園（17園）、小学校（2校）、中学校（3校）、中央図書館、あすなろ学園、上野公民館、商工センター、勤労センター、市民体育館、温水プール、公園、運動公園、富木島公民館

3 エコスクール社会環境部会企画講座

「大気・ばいじん」「騒音・振動」「悪臭等」に関して市民・行政・事業者の協働で取り組めるものとして、今回は事業者の協力のもと当部会で企画し、市民が参加し、学べるエコスクールの講座を次のとおり開催しました。

日時／場所 平成25年12月14日(土)午前9時／新日鐵住金(株)名古屋製鐵所

対象者／参加費 小学3年生以上／無料

参加／募集人数 13人／40人

講座概要 名古屋製鐵所で作られているものや、地球の限りある資源を無駄なく使う工夫、また、周辺環境に配慮した「もの作り」について学ぶ。

平成26年度は、次の講座を予定しております。

日時／場所 平成26年12月25日(木)午後1時／東邦ガス(株)ガスエネルギー館

対象者／参加費 市内在住、在学の小学生／無料

募集人数 40人

講座概要 環境負荷の軽減や地球温暖化対策に有効な天然ガスの運搬、保管及び利用の状況を学び、また、液化ガスを知るために代替の液体チツソを使う冷熱実験で不思議な世界を体験する。

今後も引き続き、当部会の活動分野に関する講座を委員会内で協議し、企画していきたいと考えております。

4 今後の課題

河川・ため池水質浄化事業については、環境浄化微生物利用者である市民や公共施設管理者にアンケートを行い、状況を把握していきたいと考えております。

平成24年度から取り組みを開始した当部会の活動分野のエコスクール講座は、広範囲の事業者の協力を得ることが課題です。事業者への働きかけはもちろんのこと、他の部会とも連携を図り、エコスクールのさらなる認知度向上のための活動も行い、事業者が自主的に講座を開催したくなるような環境づくりを進めてまいります。

環境基本計画は、市民・団体・行政・事業者が協働して様々な分野で環境改善に取り組むための計画であり、今後も多くの方々と事業推進のため一体となって取り組んでまいりたいと考えております。

平成25年度生活環境部会活動報告

部会長 若 杉 勇

1 部会での活動

平成25年度生活環境部会は年度内に3回の会議と3回の東海市エコスクール実行委員会を開催しました。企画の内容についての検討やPR活動についてのあり方について検討を重ね、よりよい東海市エコスクール事業の実施に取組みました。

また、環境基本計画後期計画の見直しが実施されました。一部の指標は前回よりも高い水準に目標値を見直ししたり、新しく目標値を設定し「未来につなぐ 美しいふるさと東海」へ向けて取組みを推進していきます。

2 実施事業

平成25年度東海市エコスクール 開催実績

- ① 事務局企画講座 : 7講座 関連企画講座 : 13講座
- ② 公募企画講座 : 4講座 保育園共同講座 : 3講座
- ③ 参加人数総合計 964人

3 講座の様子



「知多半島のエネルギーを学ぼう」
中部国際空港のリサイクルセンターにて、
講師から説明を受けている様子

「もっと知りたい発酵食品～見る！知る！
作る！おつけもの講座～」
ダイニチ食品(株)にて、キムチ作り体験を
通して、乳酸菌について学んでいる様子



4 振り返り

東海市エコスクールは、同実行委員会が企画した事務局講座や他課が行う関連講座、一般からの応募で行う公募講座の3つから成り立っており、平成25年度は、27講座(うち3講座中止を含む)、964人の参加がありました。平成24年度の971人より若干少なめではありますが、好調に推移しております。

今回の講座で、市内で活躍されているダイニチ食品株式会社を新たなフィールドとして「もっと知りたい発酵食品～見る！知る！作る！おつけもの講座～」を新たに開催しました。身近で古くからある発酵食品を活かした講座で、参加者から大好評をいただきました。今後も市内の事業所から協力を得ながら、新たな広がりに注力したいと思います。

エコスクールの様々な講座の中で、公募講座は、3～5の講座を毎年開催しております。しかし、新しい団体等から応募がなかなかありません。そこで、新しい団体等からの応募が来るよう、生活環境部会で現状の問題点を洗い出し、その解決策について検討しました。多くの議論を重ねた結果、より一層のPRをすべきとの結論に達しました。分かりやすいチラシを作成し、市内だけでなく市外の施設にもチラシを配布し、PR活動に注力しました。PR効果は、平成26年度以降にならないとわかりませんが、効果確認を行い、公募講座を拡充していきたいと思っております。

5 今後について

今後の課題としては、講座1つ1つの質の向上です。参加者から講座のアンケートをとっておりますが、環境問題への考え方についての設問があり、多くの回答が「変わらない」、「わからない」です。今後、講座を通して、環境問題への考え方が変わるよう、キーワードを発信したり、参加者の意見を求めて、環境問題について考えてもらえる時間を取りたいと思っております。

以 上

平成25年度 廃棄物・リサイクル部会活動報告

部会長 原 田 由 美

1 部会での活動

東海市環境基本計画の趣旨に沿い、平成22年度に策定した「第3次東海市ごみ処理基本計画」（平成23年度～32年度）に位置付けた3R（リデュース：発生抑制、リユース：再使用、リサイクル：再生利用）推進の有効適正な方策について、私を含む部会メンバー5名は、3R推進協議会（全委員11名）に参画し、委員がそれぞれの立場から市への提案と意見交換を行ってきた。

2 25年度の部会活動内容


(1) 重点事業の選定

3Rの中で2番目に大切な「リユース：再使用」の事業である「不用品リサイクル情報」の利用減少等の課題について検討及び事業見直しに取り組むこととした。

(2) 事業見直しに関する検討及び実施

ア 広報啓発方法

㊦ 掲示方法の改善

従来	現在
	
リサイクル情報ファイル のみの掲示	各公共施設の掲示板上での掲示

(イ) 町内会・自治会への回覧による利用啓発

110町内会・自治会に回覧の依頼を行い、合計2,877地域での回覧を実施

(ウ) 市広報等での情報提供

a 市の広報での周知活動

b 市ホームページの刷新及びトップページへのピックアップ

c 秋祭り消費者広場での啓発

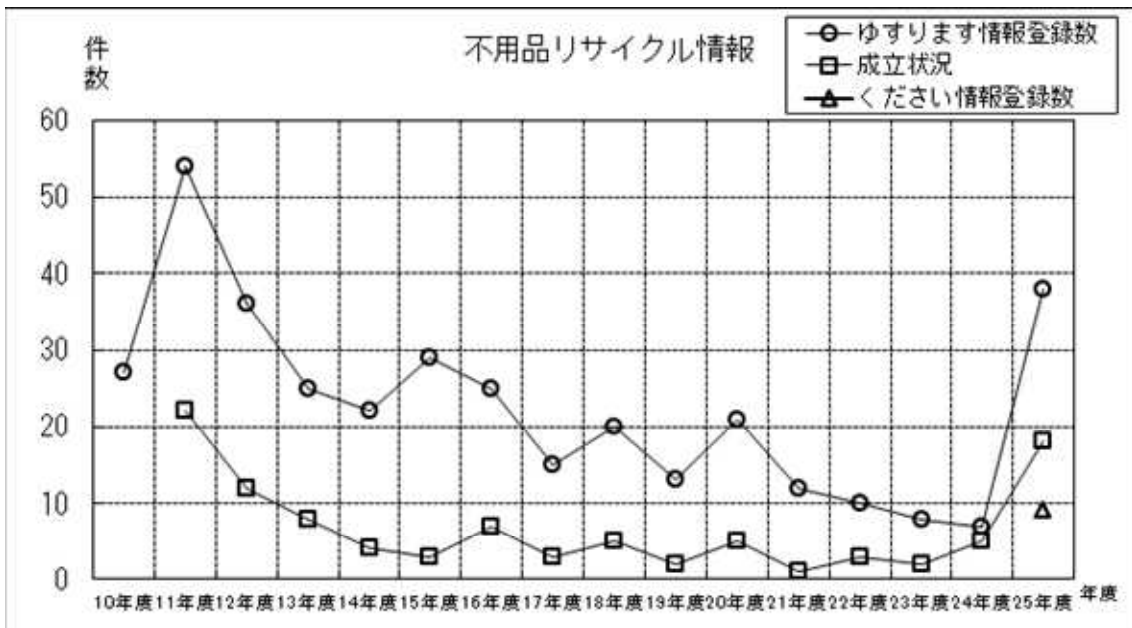
イ ホームページ入力フォームの追加

ホームページ上に入力フォームを設け、利用者の利便性を向上

ウ 制度見直し

	従来（見直し前）	現在（見直し後）
制度	<ul style="list-style-type: none"> 譲る側のみでの情報 文字のみでの掲載 	<ul style="list-style-type: none"> 譲る側の情報→「ゆずります情報」 譲り受ける側の情報→「ください情報」 写真を掲載
効果	なし	<ul style="list-style-type: none"> 不用品希望者で掲載されていない不用品が欲しい方は、「ください情報」への登録でリユースの輪を広げられる 希望者の需要を把握できる 交渉成立の可能性が広がる 写真掲載で、わかりやすい不用品情報の提供ができる

3 活動実績



平成25年度は38件と利用者数が大きく改善。東海市のリユースが進み、ごみ減量に大きく貢献することができた。

4 活動を通しての感想と今後の期待

リユース事業を見直し、改善に向けての活動を通して、消費者の一人としてごみの減量やリサイクル推進への貢献を真剣に考える機会を与えていただいたことにより、私を含め委員の意識も大いに向上したものと思っている。

今後は、委員をはじめ市民一人ひとりがごみ処理に関心を持ち、東海市が環境への負荷が少ない循環型社会へ貢献していることを期待する。

以上

(2) 各部会の推進事業の状況

社会環境部会

事業名	目的	内容																		
河川ため池水質浄化事業	環境浄化微生物を使って、家庭からの浄化槽及び生活雑排水の水質改善・悪臭対策等により、快適な生活環境を保ちながら、流れ込む河川やため池の水質浄化を目指すもの	<p>1 環境浄化微生物の無料配布(705本/月)</p> <p>○ 無料配布場所</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市役所1階北玄関 ・しあわせ村玄関 ・文化センター事務室入口前 <p>※ 毎月1日と15日の2回に分けて配布。</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td>市役所</td> <td>295</td> </tr> <tr> <td>しあわせ村</td> <td>250</td> </tr> <tr> <td>文化センター</td> <td>160</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">計</td> <td>705</td> </tr> </table>	市役所	295	しあわせ村	250	文化センター	160	計	705										
		市役所	295																	
しあわせ村	250																			
文化センター	160																			
計	705																			
		<p>2 環境浄化微生物を公共施設において使用(295本/月)</p> <p>○ 使用場所</p> <p>しあわせ村、清掃センター、文化センター、明倫調理場、保育園(17園)、小学校(2校)、中学校(3校)、中央図書館、あすなろ学園、上野公民館、商工センター、勤労センター、市民体育館、温水プール、公園、運動公園、富木島公民館</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td>しあわせ村</td> <td>60</td> </tr> <tr> <td>清掃センター</td> <td>10</td> </tr> <tr> <td>文化センター</td> <td>20</td> </tr> <tr> <td>明倫調理場</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>保育園(17園)</td> <td>69</td> </tr> <tr> <td>小学校(2校)</td> <td>20</td> </tr> <tr> <td>中学校(3校)</td> <td>23</td> </tr> <tr> <td>中央図書館</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>あすなろ学園</td> <td>1</td> </tr> </table>	しあわせ村	60	清掃センター	10	文化センター	20	明倫調理場	3	保育園(17園)	69	小学校(2校)	20	中学校(3校)	23	中央図書館	5	あすなろ学園	1
しあわせ村	60																			
清掃センター	10																			
文化センター	20																			
明倫調理場	3																			
保育園(17園)	69																			
小学校(2校)	20																			
中学校(3校)	23																			
中央図書館	5																			
あすなろ学園	1																			

		<table border="1"> <tr> <td>上野公民館</td> <td>20</td> </tr> <tr> <td>商工センター</td> <td>10</td> </tr> <tr> <td>勤労センター</td> <td>10</td> </tr> <tr> <td>市民体育館</td> <td>10</td> </tr> <tr> <td>温水プール</td> <td>6</td> </tr> <tr> <td>公園・運動公園</td> <td>20</td> </tr> <tr> <td>富木島公民館</td> <td>8</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>295</td> </tr> </table>	上野公民館	20	商工センター	10	勤労センター	10	市民体育館	10	温水プール	6	公園・運動公園	20	富木島公民館	8	計	295
上野公民館	20																	
商工センター	10																	
勤労センター	10																	
市民体育館	10																	
温水プール	6																	
公園・運動公園	20																	
富木島公民館	8																	
計	295																	
エコスク ール事業	地球や自然環 境への関心を 深め、地域の 環境に関する 課題に向き合 うことのでき る人づくりを 目指すもの	<p>社会環境部会主催講座の企画・立案</p> <p>講座名 地球の環境と天然ガス～超低温の世界を体験～</p> <p>開催日 平成26年12月25日(木) (予定)</p> <p>開催時間 午後1時から午後4時(予定)</p> <p>対象者 市内在住、在学の小学生</p> <p>募集人数 40人(予定)</p> <p>広報 12月1日号掲載(予定)</p> <p>内容 東邦ガス株式会社ガスエネルギー館で地球温暖化対策、省エネルギー、天然ガスを学習し、また、冷熱実験で不思議な世界を体験する</p> <p>上記講座の企画案を協議し、平成26年度にて実施予定</p>																

生活環境部会

平成25年度東海市エコスクール開催実績

開催日	形態					講座タイトル
	公募				主催	
	公募	協働	子育て	出前	事務局	
4/27 土		○				公園のタケノコを採って調理をしてみよう
5/12 10/27 日		○				親子農業体験教室
5/25 土		○				ヒメボタルに会いに行こう
6/8 土		○				公園の梅の実を採って簡単な調理を学ぼう
6/22 土					○	東海市自然探検隊 ～横須賀新川で海と川の生き物をつかま えよう～
7/6 土			○			養父保育園共同講座
7/6 土		○				夏の昆虫とオオケマイマイを見つけよう
7/13 土			○			平洲保育園共同講座
7/20 土			○			東山保育園共同講座
7/22 月	○					上野新川生きもの探検隊1 夜の昆虫観察会
7/25 木					○	知多半島のエネルギーを学ぼう
7/29 月	○					上野新川生きもの探検隊2 セミの羽化を見てみよう!
8/8 木		○				リサイクル探検隊
8/17 土	○					エコって工作
8/18 日					○	水族館を体験しよう ～長良川と世界の生き物～
8/19 月		○				親子分別教室
8/24 土		○				竹を使って遊ぼう
10/13 日		○				公園のキノコを観察しよう
10/27 日		○				森の宝物で工作をしよう
11/9 土 11/10 日					○	子どもどんぐり工作
12/7 土		○				星の観察会
12/14 土					○	地球の資源ともの作り ～地球環境や資源の大切さを学ぼう ～
12/26 木					○	恐竜の化石から太古を学ぼう
1/25 土		○				公園の野鳥を観察しよう
2/1 土					○	もっと知りたい発酵食品 ～見る!知る!作る!おつけもの 講座～
3/8 土		○				健康ウォーキング
3/15 土	○					手作りのミニコンサートを楽しんでビオトープを知ろう
計	4	13	3	0	7	予定27講座・実施24講座 40人/講座
24年度	3	13	3	0	9	予定28講座・実施27講座 36人/講座
24年度対比	1	0	0	0	-2	予定-1講座・実施-3講座 4人/講座

開催地 開催場所	募集 人数	応募 人数	当選 人数	申込率	キャンセ ル人数	参加 人数	参加率
東海市 大池公園	40	39	39	97.5%	1	38	97.4%
東海市 東海市立農業センター	90	81	81	90.0%	0	81	100.0%
東海市 上野台公園	40	36	36	90.0%	0	36	100.0%
東海市 大池公園	40	41	41	102.5%	0	41	100.0%
東海市 横須賀新川	60	48	48	80.0%		雨天中止	
東海市 横須賀新川	30	31	31	103.3%	2	29	93.5%
東海市 聚楽園公園	40	18	18	45.0%	2	16	88.9%
東海市 聚楽園公園	30	16	16	53.3%	0	16	100.0%
東海市 上野台公園	30	20	20	66.7%	0	22	110.0%
東海市 船島小学校	20	17	17	85.0%	0	17	100.0%
①常滑市 ②東海市 ①中部国際空港 ②東邦ガスガスエネルギー 館	40	34	34	85.0%	2	32	94.1%
東海市 船島小学校	20	21	21	105.0%		雨天中止	
①名古屋市 ②岩倉市 ①アサヒビール株式会社 ②有限会社大原硝 子店 岩倉工場	40	35	35	87.5%	0	35	100.0%
東海市 市民活動センター	100	96	96	96.0%	0	96	100.0%
岐阜県各務ヶ原市 アクア・トトぎふ	40	38	38	95.0%	0	38	100.0%
東海市 市民活動センター	50	23	23	46.0%	0	23	100.0%
東海市 大池公園	40	3	3	7.5%		少数中止	
東海市 大池公園	40	31	31	77.5%	4	27	87.1%
東海市 大池公園・大窪公園・加家公園	40	21	21	52.5%	3	18	85.7%
東海市 秋まつり会場（勤労センター駐車場）	200	164	164	82.0%	0	164	100.0%
東海市 大池公園	50	37	37	74.0%	3	34	91.9%
東海市 新日鐵住金(株)名古屋製鐵所	40	13	13	32.5%	0	13	100.0%
豊橋市 豊橋市自然史博物館	40	46	39	115.0%	2	37	94.9%
東海市 大池公園	40	10	10	25.0%	3	7	70.0%
東海市 ダイニチ食品株式会社	40	36	36	90.0%	4	32	88.9%
東海市 聚楽園公園・加家公園	40	34	34	85.0%	7	27	79.4%
東海市 船島小学校	100	85	85	85.0%	0	85	100.0%
	1,380	1,074	1,067	100.7%	33	964	92.3%
	1,328	1,139	1,018	111.9%	43	971	95.8%
	52	-65	49	-11.2%	-10	-7	-3.4%

廃棄物・リサイクル部会

事業名	目的	内容
不用品リサイクル情報事業	リユース事業である「不用品リサイクル情報」の利用減少等の課題について検討及び事業見直しを行い、不用品の再利用を促進することで、ごみの減量を図る	<p>1 不用品リサイクル情報について 家庭で使用されなくなった物品に関する情報を登録し提供することにより、不用品の再使用を促進し、ごみの減量を図るものである。登録した情報は、市ホームページに登載、情報ファイルの設置（市役所・市民館・公民館）を行っている。</p> <p>2 不用品リサイクル情報の状況 ・登録が減少している ・制度自体の認知が低い ・譲りたい物の情報のみなので、譲ってほしい人のニーズがわからない ・ホームページ等の閲覧場所が分かりづらい</p> <p>3 事業見直しに関する検討及び実施 (1) 広報啓発方法 ア 掲示方法の改善 従来のファイルでの掲示に加え、各公共施設に掲示板での掲示を依頼 イ 町内会・自治会への回覧による利用啓発 110町内会・自治会に回覧の依頼を行い、合計2,877地域での回覧を実施 ウ 市広報等での情報提供 (ア) 市の広報での周知活動 (イ) 市ホームページの刷新及びトップページへのピックアップ (ウ) 秋まつり消費者広場での啓発 (2) ホームページ登録フォームの追加 ホームページ上に登録フォームを設け、利用者の利便性を向上 (3) 制度見直し ア リサイクル情報を「ゆずります情報」と「ください情報」に分離 イ ホームページと掲示に不用品の写真を掲載</p>

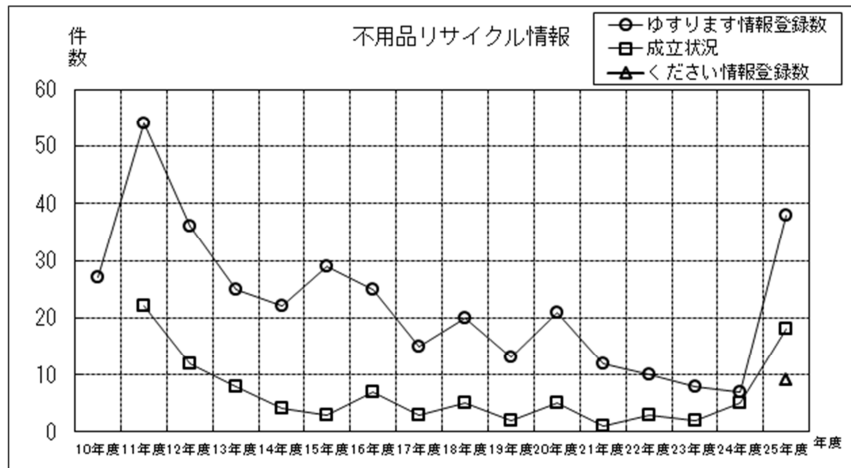
4 活動実績

リサイクル情報推移

平成26年3月31日現在

登録年度	登録数		成立状況		成立率	
	ゆずります	ください	ゆずります	ください	ゆずります	ください
10年度計	27	—	不明	—	不明	—
11年度計	54	—	22	—	40.7%	—
12年度計	36	—	12	—	33.3%	—
13年度計	25	—	8	—	32.0%	—
14年度計	22	—	4	—	18.2%	—
15年度計	29	—	3	—	10.3%	—
16年度計	25	—	7	—	28.0%	—
17年度計	15	—	3	—	20.0%	—
18年度計	20	—	5	—	25.0%	—
19年度計	13	—	2	—	15.4%	—
20年度計	21	—	5	—	23.8%	—
21年度計	12	—	1	—	8.3%	—
22年度計	10	—	3	—	30.0%	—
23年度計	8	—	2	—	25.0%	—
24年度計	7	—	5	—	71.4%	—
25年度計	38	9	18	1	47.4%	11.1%

※制度の開始 平成10年9月から登録の申し込みを受け付ける



事業改善に伴い、平成24年度の7件から平成25年度の38件と、利用者数が大きく増進した。

平成26年度以降も、3R（リデュース、リユース、リサイクル）で2番目に大切な「リユース」を推進し、ごみ減量に貢献する事業や見直しを検討していく。

2 成果指標の評価について

(1) 成果指標一覧表

柱	分野	成果指標	単位	基準値	現状値	H20	H21	H22	H23	H23目標	H24	H25	H25目標	H28目標		
社会環境	A 大気・ばいじん	①降下ばいじんの量	市内平均	t/km ² ・年	4.4	4.6	4.7	4.2	3.8	3.8		3.9	4.2	3.5		
			北部平均	t/km ² ・年	3.3	3.4	3.2	2.9	2.7	2.7		2.8	2.8	2.9		
			南部平均	t/km ² ・年	5.4	5.9	6.2	5.6	4.9	4.8		4.9	5.6	4.1		
		②大気汚染基準値の達成率		%	73	75	80	80	80	63		80	80	90		
	B 水質	③河川のBOD濃度(大田川大宮橋)		mg/ℓ	14.4	11.7	4.5	2.9	4.4	2.8		2.7	2.0	5.0		
			④きれいな川に生息している生物の種類数		種	6	13						10	7	25	
			⑤下水道普及率		%	43.8	52.3	63.2	65.5	68.4	70.2		72.3	74.3	67.5	
C 騒音・振動	⑥環境騒音基準値の適合率		%		67	75	75	67	67	75	67	67		85		
		⑦自動車交通騒音基準値の適合率		%		100	90	100	100	100	100	80	100		100	
D 悪臭等	⑧悪臭の公害苦情件数		件		20	10	16	12	11	15	14	10		10		
生活環境	E 自然	⑨緑などの自然環境などに満足している市民の割合		%	48.0	49.9	52.1	53.7	54.1	56.2		56.5	60.0	60		
		⑩水辺で生息している生物の種類		種	96	114	97	115	117	107		112	107		117	
	F 公園・緑地・景観	⑪まちの公園、街路樹などに満足している市民の割合		%	53.3	54.8	58.3	59.0	59.9	60.8		60.1	61.7	65		
	G 環境美化	⑫地域内にポイ捨てが目立つと感じる市民の割合		%	48.7	48.7						54.1	56.3		40	
H 交通	⑬環境に配慮してマイカーの利用を工夫している市民の割合		%		—	44.7	45.0	42.0	42.8		43.2	46.1	61			
廃・リ	I リデュース ・リユース	⑭市民一人当たりのごみの排出量		g/人・日	656	621	612	593	566	557		552	546	550		
		⑮再生品やエコマーク商品をなるべく選ぶ市民の割合		%	40.0	40.5	45.0	44	40.7	39.2		38.7	37.3	60		
		⑯エコショッピングに協力する店舗数		店		0	18	19	21	17	100	86	91		200	
	J リサイクル ・適正処分	⑰-1市民一人当たりのごみの資源化量		g/人・日	179	190	165	152	140	136		131	125	200		
⑰-2民間を含む市民一人当たりのごみの資源化量			g/人・日	196	196						203	197		220		
⑱ごみのリサイクル率			%	21.4	25.3	23.6	23	22.6	22.4		22.2	21.8	30			
共通基盤	K 地球	⑳-1 1世帯当たりの電気使用量		kW		5,398	5,133	4,948	5,282	4,983	5,128	4,907	4,834	4,858		
		⑳-2 1世帯当たりのガス使用量		m ³		365	362	362	371	376	347	375	358	329		
L 環境学習 ・人づくり	㉑環境に関する行事に参加している人の割合		%		—	29.5	26	27.0	26.6	30.0	23.7	23.3		35		

※網かけのある成果指標は、後期計画から新規、変更した指標

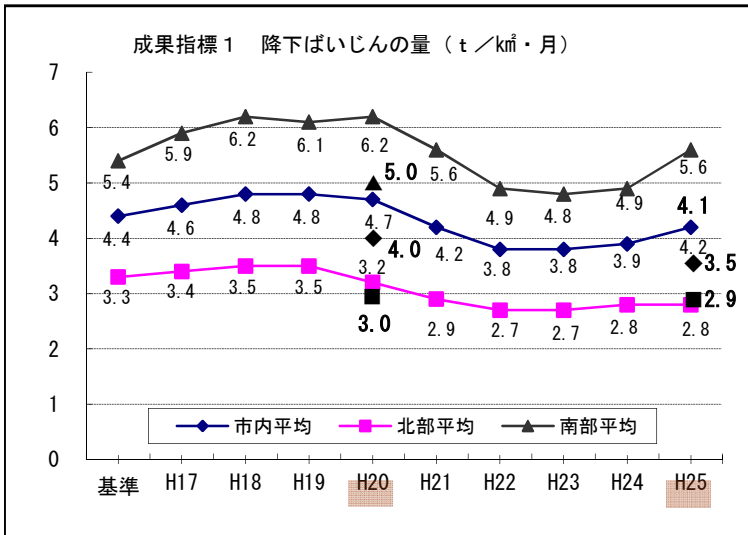
※網かけのあるH25目標、H28目標は、目標を達成した指標

※指標No.⑯は24年度から算出方法の変更

※現状値はH17数値 ただし、指標No.④, ⑫, ⑰-2は23年度数値

(2) 成果指標評価表

柱	1 社会環境
分野	A 大気・ばいじん
ビジョン	きれいな空気の中で暮らせるまち

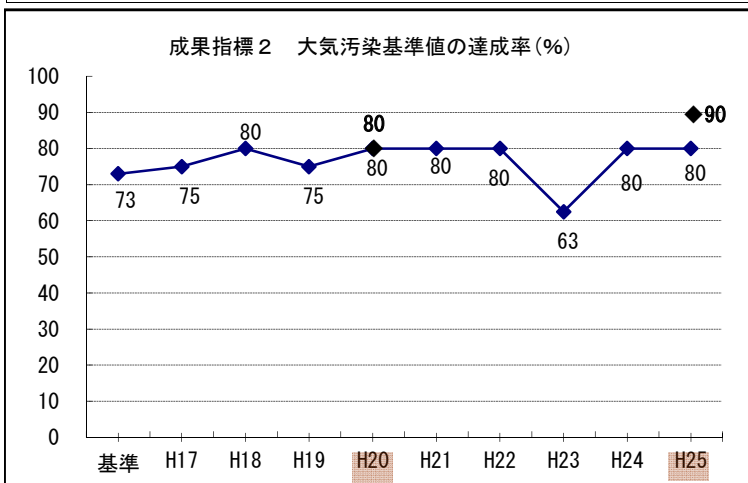


主な事業
 大気汚染常時監視
 降下ばいじん等調査
 公害防止協定による立入り調査
 及び防止対策の指導

計画通りに成果が上がっているか

目標達成
 順調
 順調でない

成果指標の分析
 平成25年夏に北西風が多く観測されたことが影響したと見込まれ、25年度の降下ばいじん量は市内平均4.2t(北部平均2.8t、南部平均5.6t)で前年度と比べ0.3tの上昇となった。臨海部企業はばいじん発生対策を常実施しているが、対象箇所が多く、また発生を防止するための技術の急激な向上が見込めない状況ではあるものの、細かな発じん防止対策の積み重ねが効果に表れている。また、気象条件により測定値は、増加する可能性も見込まれる。



主な事業
 大気汚染常時監視

計画通りに成果が上がっているか

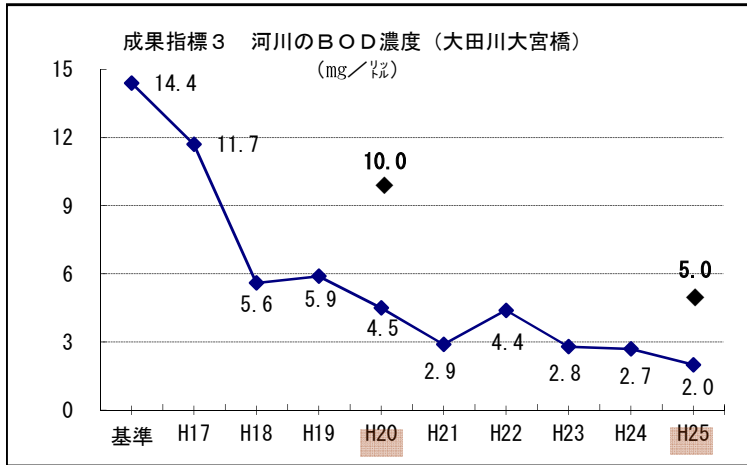
目標達成
 順調
 順調でない

成果指標の分析
 事業所への総量規制、自動車排ガス対策等により、平成25年度は二酸化硫黄、二酸化窒素及び浮遊粒子状物質が環境基準を達したものの、光化学オキシダントは全局で未達成であった。光化学オキシダントについては、発生のメカニズムが複雑であり改善が進んでいないため、全国的にも平成23年度の達成率は0.5%であり、効果的な対策がないのが現状である。

成果が向上する余地(可能性)は? 大 中 小

成果向上のためにすべきこと、次年度への取り組み方針
 降下ばいじんは、南部が北部の約2倍と多いため、発生原因の分析をさらに進め、引き続き企業に対して発じん対策等、環境対策を指導し実現することで改善する余地がある。
 大気汚染基準値では、現在光化学オキシダントの効果的な対策はないが、18年度から始まった揮発性有機化合物(VOC)を減らすための新たな仕組み等、関連各機関における総合的な対策により向上する余地はある。

柱	1 社会環境
分野	B 水質
ビジョン	川や池を身近に感じて暮らせるまち



主な事業

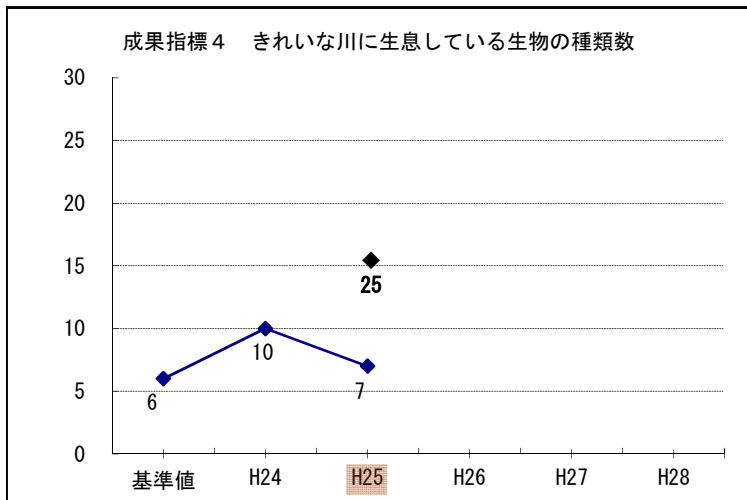
河川の水質調査(8箇所、年4回
大宮橋のみ年8回)
河川・ため池水質浄化事業

計画通りに成果が上がっているか

- 目標達成
- 順調
- 順調でない

成果指標の分析

河川の水質調査は、季節や天候による影響はあるものの、20年度以降は全般的に数値が改善されている。これは、下水道の整備により生活排水の流入が減少したことが大きな要因と考えられる。



主な事業

大田川等生物調査委託
渡内川・中川クリーン作戦
河川ため池水質浄化事業

計画通りに成果が上がっているか

- 目標達成
- 順調
- 順調でない

成果指標の分析

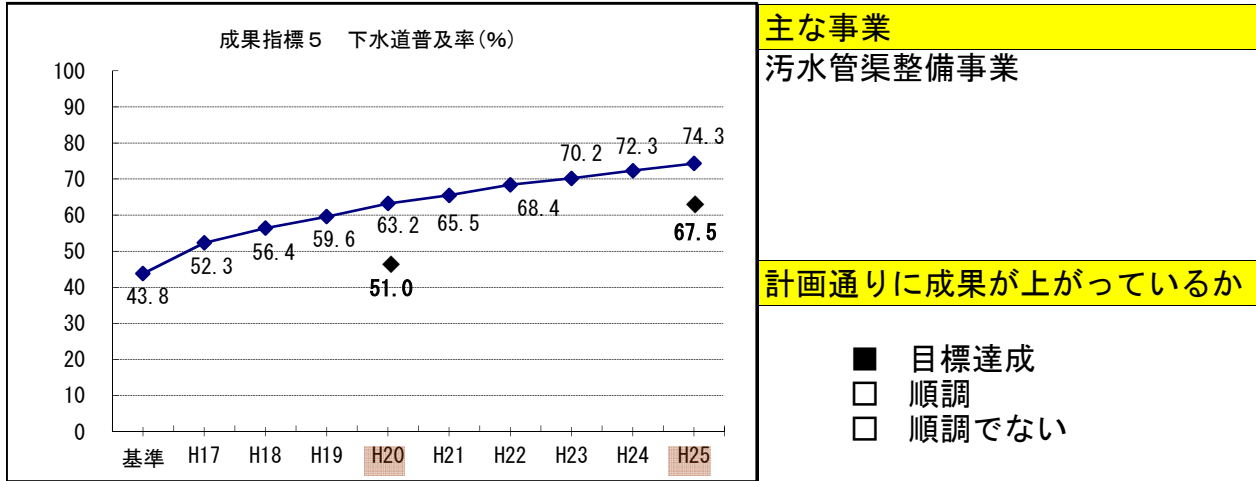
確認された指標生物は、新たに1種類が確認できた。前年度に比べ確認できなかったものが1種類、確認はできたが場所が減ったのが2種類となった。河川環境に係る大きな変動はないと思われる。

成果が向上する余地(可能性)は? 大 中 小

成果向上のためにすべきこと、次年度への取り組み方針

河川や海域の汚れは生活排水の流入による要因が大きいため、下水道の整備拡充を推進することによりさらに向上する余地がある。
下水道未整備地区においては、生活排水対策の実践など、各家庭で意識して環境にやさしいライフスタイルの推進の啓発することにより向上する余地もある。
また、河川整備や下水道整備などのハード面での施策だけでなく、河川美化活動等や生物調査により河川への環境への関心を高めるなど、ソフト面での施策が成果向上に対して重要な要素である。

柱	1 社会環境
分野	B 水質
ビジョン	川や池を身近に感じて暮らせるまち



成果指標の分析

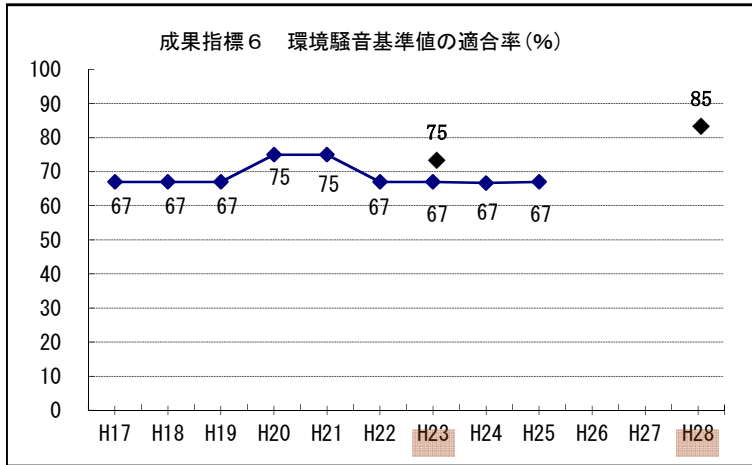
平成25年度の下水道普及率は前年度に比較し、2.0ポイント増加の74.3%となった。これは、名和町、富木島町、加木屋町で整備済面積が増加したことによるもので、当初の目標である25年度目標値67.5%を超えることになった。

成果が向上する余地（可能性）は？ 大 中 小

成果向上のためにすべきこと、次年度への取り組み方針

污水管渠整備には多大な経費を要するため、一度に成果を向上することはできないが、事業認可内の面整備工事を実施することにより、成果向上の余地はある。

柱	1 社会環境
分野	C 騒音・振動
ビジョン	静かでおだやかに暮らせるまち

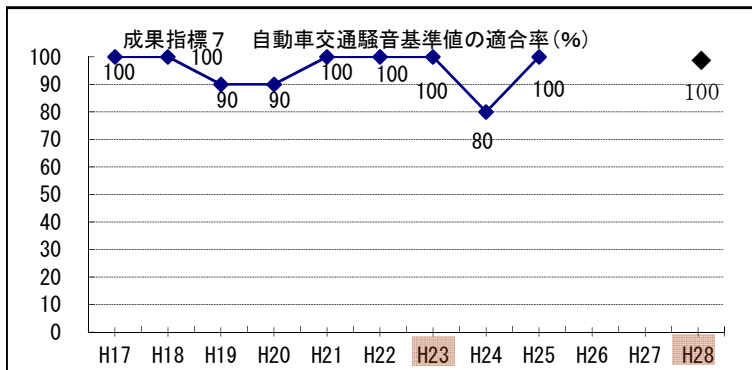


主な事業
環境騒音測定

計画通りに成果が上がっているか

目標達成
 順調
 順調でない

成果指標の分析
測定調査は、名和町2地点、中央町、中ノ池、横須賀町、加木屋町の市内6地点で実施している。25年度は、昼間の測定では上野公民館（名和町）で環境基準を達成できなかったがそれ以外の地点では環境基準を達成した。夜間の測定では、上野公民館（名和町）、緑陽敬老の家（名和町）、市役所（中央町）の3地点が達成できなかった。



主な事業
自動車騒音測定
自動車騒音常時監視業務

計画通りに成果が上がっているか

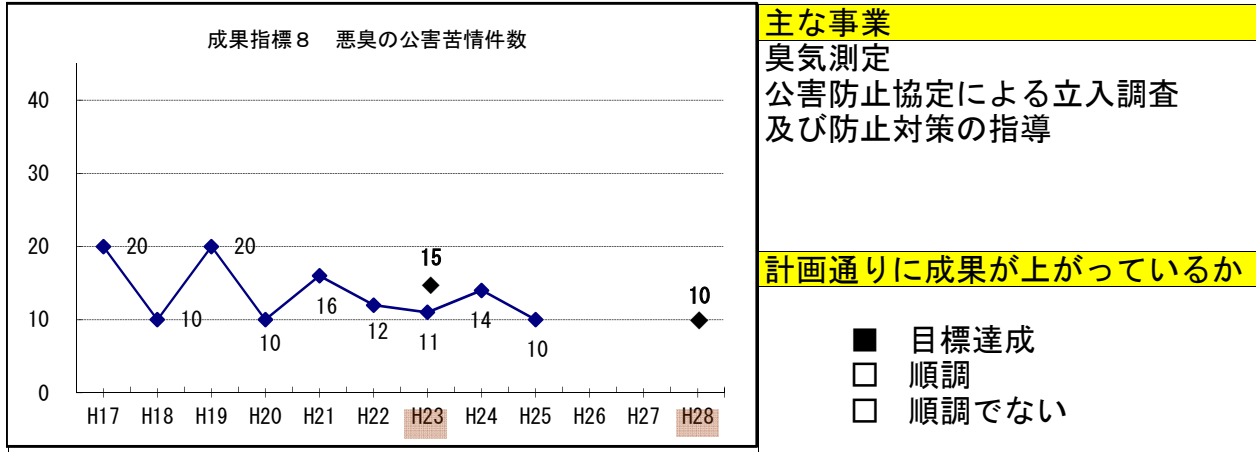
目標達成
 順調
 順調でない

成果指標の分析
自動車騒音は、名和町2地点、荒尾町、高横須賀町、加木屋町の市内5地点で調査を実施している。
25年度は、昼間、夜間において全ての地点で要請限度を達成した。

成果が向上する余地（可能性）は？ 大 中 小

成果向上のためにすべきこと、次年度への取り組み方針
環境騒音が夜間に超過していることから、交通量増加に伴うものと考えられる。直接的な対応は難しいが、環境にやさしいライフスタイルに見直すような啓発活動を推進する。

柱	1 社会環境
分野	D 悪臭等
ビジョン	健康で安心して暮らせるまち



成果指標の分析

25年度の悪臭の苦情件数は10件で、前年度より4件減少し、28年度目標の10件を達成した。
苦情の内訳として、不明が4件、農業が1件、家庭生活が5件であった。

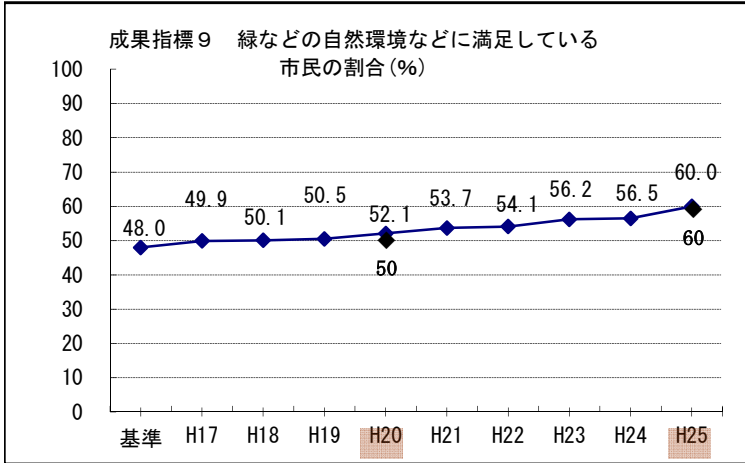
成果が向上する余地（可能性）は？

大 中 小

成果向上のためにすべきこと、次年度への取り組み方針

年度によって数値にばらつきがあるため、28年度の目標値達成は不透明であるが、25年度は28年度の目標値を達成しており、苦情件数は減少傾向にある。
今後も引き続き、固定発生源の対策の啓発、指導、巡回パトロールなどを行い苦情件数を減らしていく。

柱	2 生活環境
分野	E 自然
ビジョン	次世代につなげる生命（いのち）ある自然環境の保全



主な事業

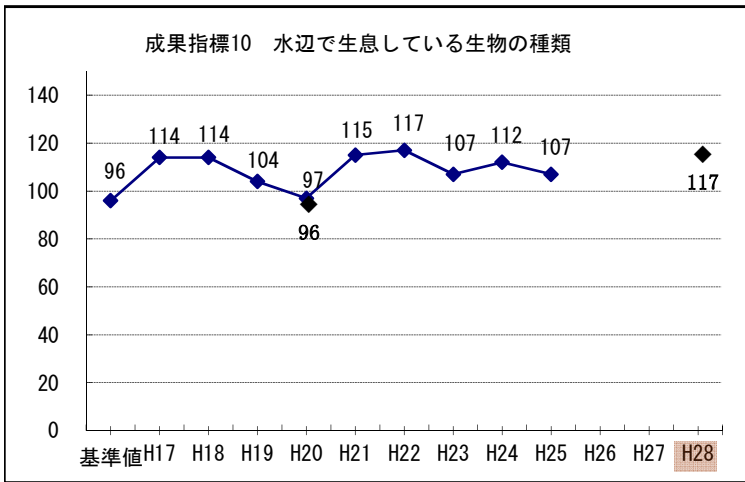
保全地区・保存樹木の指定
 松くい虫防除事業
 加木屋緑地整備事業
 緑陽公園の整備
 保全計画事業

計画通りに成果が上がっているか

目標達成
 順調
 順調でない

成果指標の分析

緑などの自然環境などに満足している市民の割合は、60.0%で目標値に達した。年齢別では16～39歳で71～64%と目標値を上回っているが40歳以上は50%台と目標値を下回っている。職業別ではパート・アルバイト、学生は60%台と目標値を上回っているが、その他は下回っている。学区別では、渡内、横須賀、加木屋、加木屋南では目標値を下回っているが、その他は目標値を上回っている。現行の施策を継続するとともに、緑の基本計画に基づき、さらなる緑地の保全と創出に努めていく必要がある。



主な事業

河川ため池水質浄化事業
 東海市エコスクール

計画通りに成果が上がっているか

目標達成
 順調
 順調でない

成果指標の分析

25年度は昨年度と比較し、5種類の生物が減少している。ここ数年増減を繰り返しており、目標を達成していない。

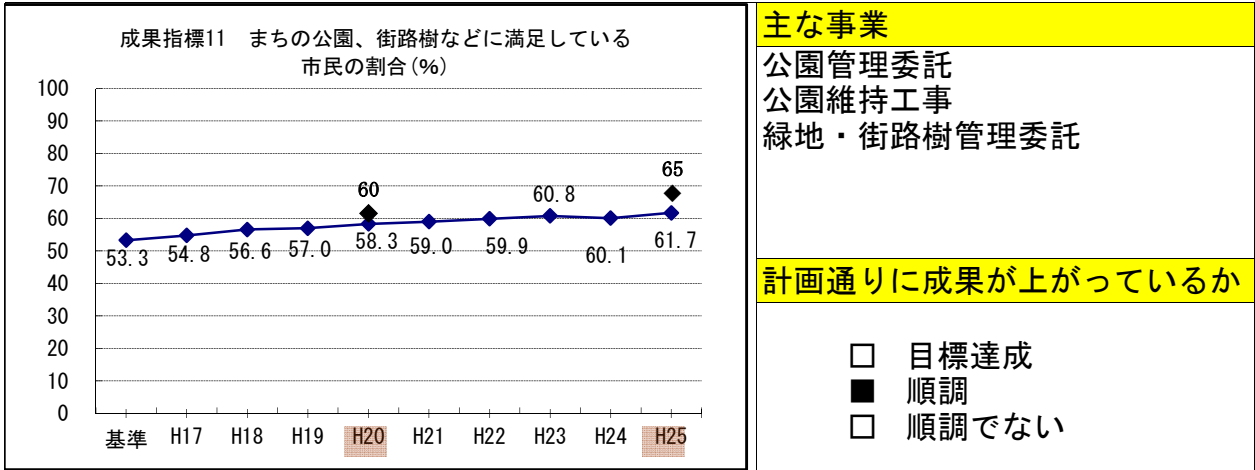
成果が向上する余地（可能性）は？ 大 中 小

成果向上のためにすべきこと、次年度への取り組み方針

緑の基本計画に基づき加木屋緑地や緑陽公園等の整備・保全を進めるほか、保全地区・保存樹木未登録者の登録推奨、緑の保全のための調査研究を実施することにより成果向上の余地はある。

水辺で生息している生物の種類は、下水道の整備や河川に関するエコスクールを開催することにより河川環境に対する啓発や意識向上を行っていく。

柱	2 生活環境
分野	F 公園・緑地・景観
ビジョン	花と緑あふれる心安らぐまちづくり



成果指標の分析

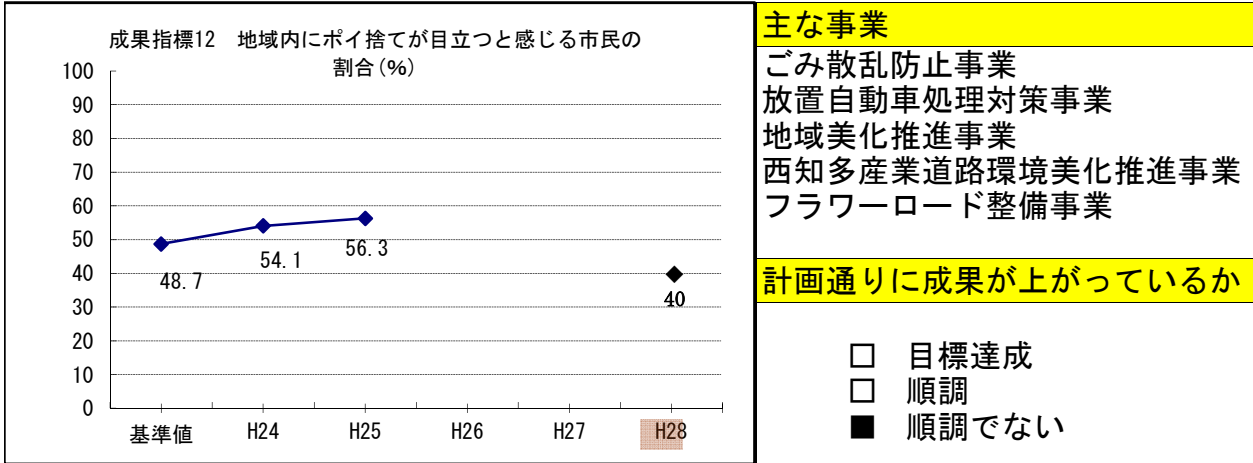
満足度については、昨年度より1.6%増加しており順調に増加しているものの目標値には達していない。男女別では男性61%女性62%と差異はなかった。年齢別では16～19歳が80%と高く、職業別では学生が79%と高いが後は60%前後とそれほど差異がない。学区別では緑陽地区が72%と最も高く、加木屋地区の52%が最も低かった。管理の推進にともない少しずつではあるが数値が向上している。

成果が向上する余地(可能性)は？ 大 中 小

成果向上のためにすべきこと、次年度への取り組み方針

引き続き、公園や環境保全林の整備を進めるとともに、宅地開発業者等に緑地の保全・確保に努めてもらう。また、公園整備においては、地域住民の意見を反映したワークショップ方式での公園づくりを進めていくことにより成果向上の余地はあると考えている。

柱	2 生活環境
分野	G 環境美化
ビジョン	道路も公園も自分の庭 めざそうポイ捨てゼロのまち



成果指標の分析

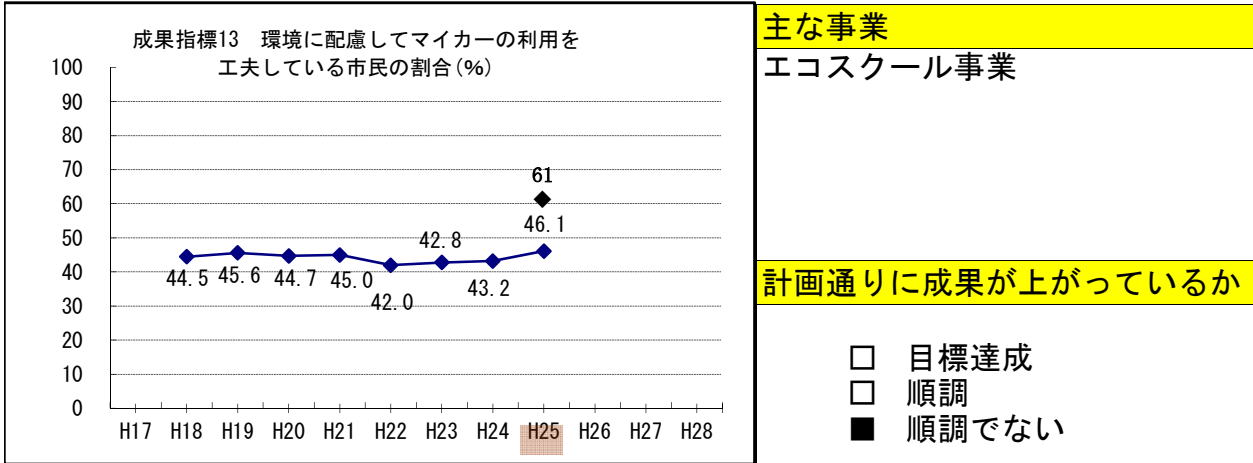
平成25年度は、昨年度よりも2.2%、基準値よりも7.6%悪化した。指標は悪化しているが、不法投棄されたゴミの回収量は年々減っているため、指標が上がっていることの要因としては、市民のゴミ問題に対する意識レベルが向上したのではないかと考える。

成果が向上する余地（可能性）は？ 大 中 小

成果向上のためにすべきこと、次年度への取り組み方針

今後も、市民にポイ捨てをしないようモラル向上が必要であり、啓発活動や地域美化活動の促進を図ることが必要。

柱	2 生活環境
分野	H 交通
ビジョン	環境に配慮した安心便利な交通システムの整備

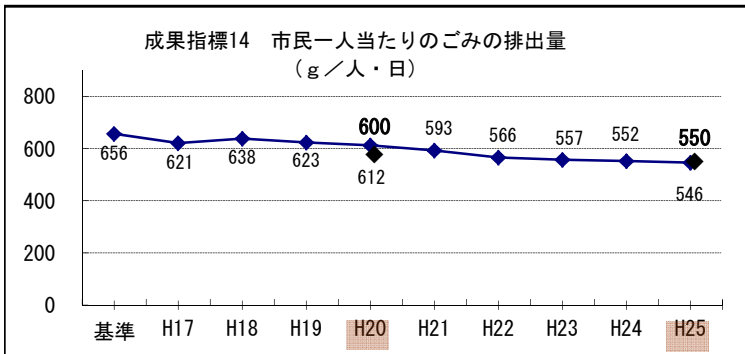


成果指標の分析
 昨年度と比較し、2.9%向上したが、目標値と比較するとほぼ横ばいといえる。工夫の内容としては、マイカーを控える割合が多く、次いでアイドリングストップをしているとの理由が多かった。

成果が向上する余地(可能性)は? 大 中 小

成果向上のためにすべきこと、次年度への取り組み方針
 指標値の改善には、市民、企業の環境保全に配慮した活動を促進のためのエコスクール事業や啓発事業等の内容を見直し、充実させることにより成果向上する余地がある。

柱	3 廃棄物・リサイクル
分野	I リデュース・リユース
ビジョン	買う人・売る人・作る人 いつも心に“もったいない”

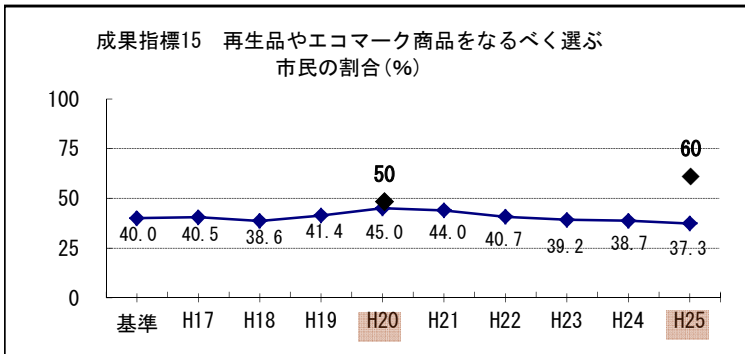


主な事業
 ごみ指定袋制、レジ袋の有料化
 集積場所での資源回収
 EM処理剤の無料配布
 広報等による啓発

計画通りに成果が上がっているか

目標達成
 順調
 順調でない

13
 市民一人当たりのごみ排出量は19年度から徐々に減少し、25年度は546gとなり、目標値を達成した。人口増に伴う、ごみ排出量の増加が見込まれる中で、ごみ指定袋制及び資源回収等のごみの発生を抑制する事業により目標値を達成した。

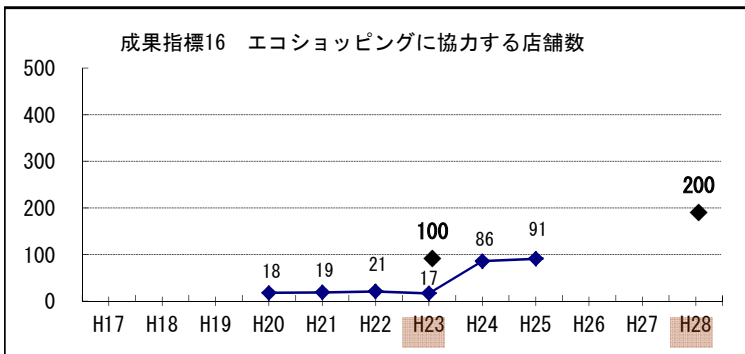


主な事業
 リサイクルフェア
 資源集団回収
 分別収集事業
 広報等による啓発

計画通りに成果が上がっているか

目標達成
 順調
 順調でない

成果指標の分析
 「再生品やエコマーク商品をなるべく選ぶ人の割合」は、19年度まで基準値とほぼ同程度、20・21年度は上回ったが、22年度から少しずつ下がってきており、あまり順調とはいえない。また、選ぶ人の割合では、50歳代以上の方が多く、職業別では主婦及び無職の方は高かったものの、若年層が低い。そのため、再生品やエコマーク商品を使用することの必要性など、さらに啓発活動が必要と考えられる。



主な事業
 レジ袋有料化
 広報等による啓発

計画通りに成果が上がっているか

目標達成
 順調
 順調でない

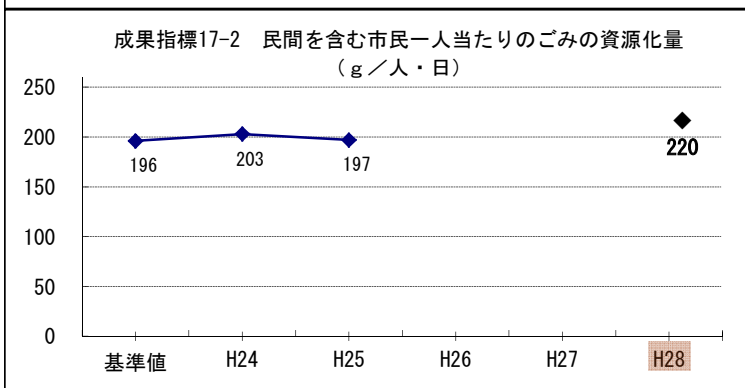
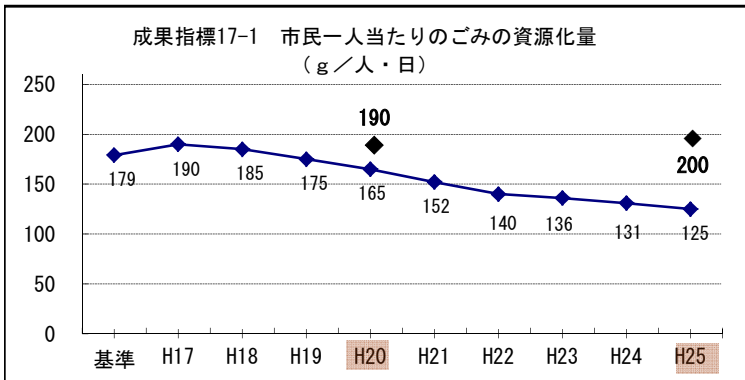
成果指標の分析
 「エコショッピングに協力する店舗数」は後期計画から定義付け及び捕捉方法を確立し、数値の把握に努めたため大幅に増加している。しかし、これからも指標の数値の補足が困難なことから、順調とはいえない。レジ袋有料化協力店舗数として15店舗と徐々に減少していることから、さらなる普及啓発に努める。

成果が向上する余地（可能性）は？ 大 中 小

成果向上のためにすべきこと、次年度への取り組み方針

- ①市広報、「ごみと資源の出し方」冊子及びごみ収集カレンダーや3R推進ホームページの充実、イベントでの展示を通じて、3R活動の推進や適正排出を呼びかける。
- ②ごみ減量とリサイクル推進を図るため、資源回収及び小型家電・硬質プラスチック製品等の無料回収を継続するとともに啓発を行う。
- ③小学生の社会見学や地域での3R活動の普及啓発を図る。

柱	3 廃棄物・リサイクル
分野	J リサイクル・適正処理
ビジョン	子どもの未来を考えて、自然にやさしい処理・処分



主な事業

リサイクル情報事業
フリーマーケットの開催
リサイクルフェア開催

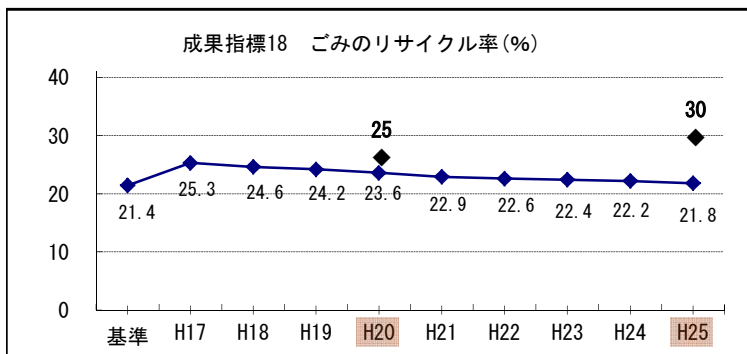
計画通りに成果が上がっているか

- 目標達成
- 順調
- 順調でない

成果指標の分析

「市民一人当たりのごみの資源化量」は、17年度190gをピークとして、以降は減少傾向に転じ、25年度は125gと前年度に比べ6g減少した。これは主に紙類が約240tの減となったもので、主な理由としては、民間古紙回収場の開設・新聞の専売店回収等への移行、容器包装自体の軽量化による減少が考えられる。また、不用品の再使用については、全般的に関心が薄い。なお、民間回収分を含めた資源化量の参考数値の25年度は197gと24年度より6g減少した。

柱	3 廃棄物・リサイクル
分野	J リサイクル・適正処理
ビジョン	子どもの未来を考えて、自然にやさしい処理・処分



主な事業

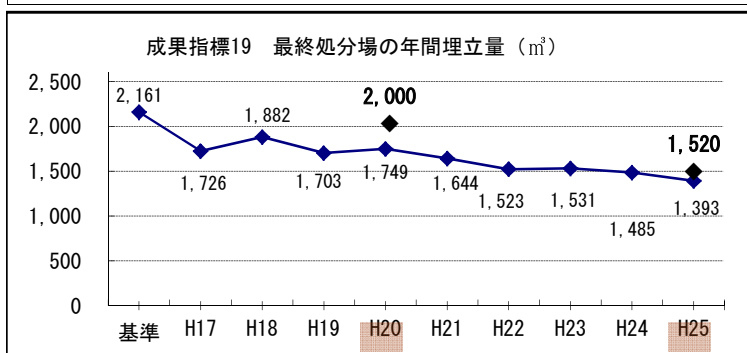
リサイクル情報事業
フリーマーケットの開催
リサイクルフェア開催

計画通りに成果が上がっているか

- 目標達成
- 順調
- 順調でない

成果指標の分析

「ごみのリサイクル率」は、紙類の民間古紙回収場の開設・新聞の専売店回収等への移行、容器包装自体の軽量化による減少により、分別収集・集団回収での回収量が約240tの減となったため順調でない。ただし、資源用袋での回収は、順調に伸びてきている。



主な事業

清掃工場・最終処分場の適切な維持管理
広域ごみ処理場の整備推進

計画通りに成果が上がっているか

- 目標達成
- 順調
- 順調でない

成果指標の分析

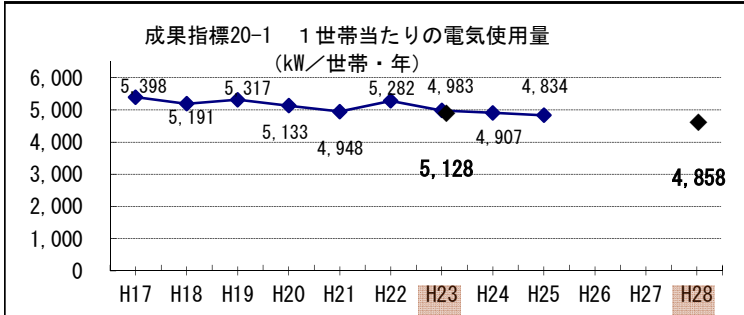
最終処分場の年間埋立量は、コンクリート・陶磁器類等の搬入量制限や資源化の推進に伴い、ここ数年は大幅な削減はされていないものの徐々に減少し、24年度に溶融飛灰の再資源化を開始したことにより、目標値をクリアした。

成果が向上する余地(可能性)は? 大 中 小

成果向上のためにすべきこと、次年度への取り組み方針

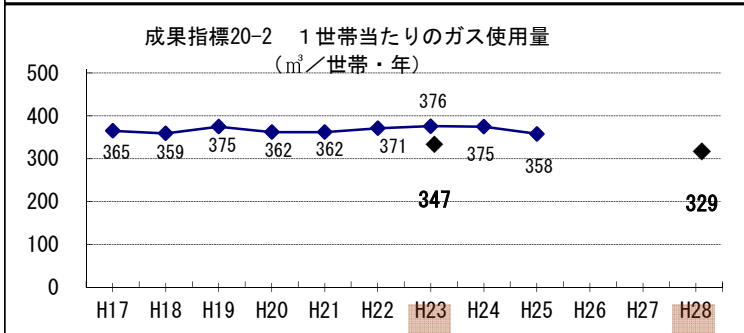
- ①市広報、「ごみと資源の出し方」冊子及びごみ収集カレンダーや3R推進ホームページの充実、イベントでの展示、小学生の社会見学を通じて、3R活動の促進や適正排出を呼びかける。
- ②ごみ減量とリサイクル推進を図るため、資源回収及び小型家電・硬質プラスチック製品等の無料回収を継続するとともに啓発を行う。
- ③焼却飛灰と溶融飛灰を分離することにより、焼却飛灰のみを最終処分場に埋立、溶融飛灰は民間処理施設で再資源化する。

柱	4 共通基盤
分野	K 地球
ビジョン	自分達の手でライフスタイルを見直し、 きれいな地球を守る



主な事業

太陽光発電システム設置補助
燃料電池システム設置補助



計画通りに成果が上がっているか

- 目標達成
- 順調
- 順調でない

成果指標の分析

①震災以来、節電意識の向上や再生可能エネルギーへの関心が高まっており、電気使用料は昨年度より減少し28年度の目標値を達成した。また、太陽光発電の買取価格が25年度から減額された事により、24年度末に飛び込みの契約が増大したことも要因として考えられる。

②ガスの市内契約数は、ここ数年増加傾向にあり、それに伴い家庭用のガス供給量も増加している。しかし、一世帯当りの使用量に関してはここ数年横ばい傾向だが、24年度と比べると25年度は減少している。

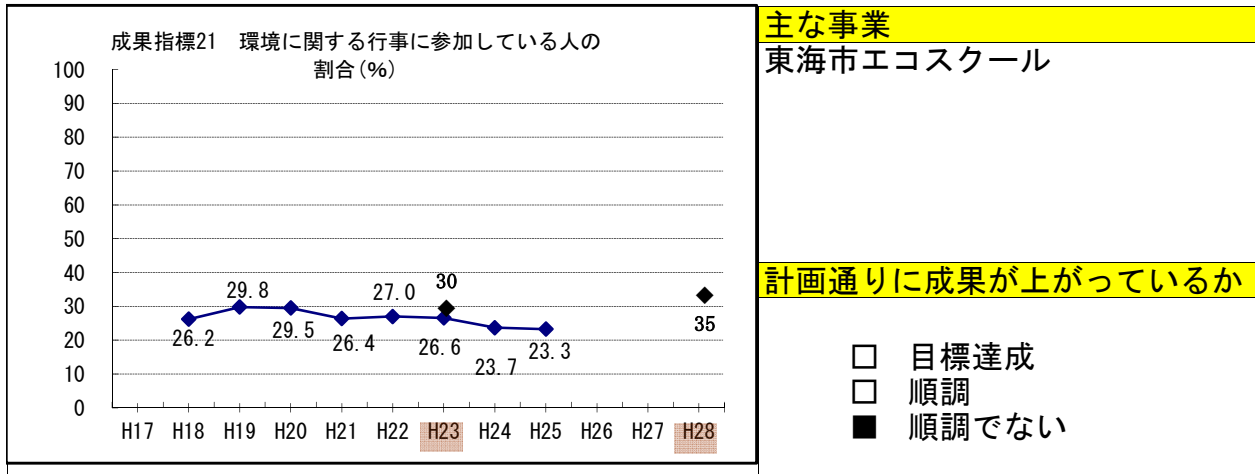
成果が向上する余地（可能性）は？

大 中 小

成果向上のためにすべきこと、次年度への取り組み方針

エネルギー消費は景気や気温に影響することが大きい。これらについては、省エネルギー効果の高い機器や太陽光発電システムの設置の促進を行なうことにより、改善が図れると考える。

柱	4 共通基盤
分野	L 環境学習・人づくり
ビジョン	学・思・行 相まって、未来につなげる人づくり



成果指標の分析

平成25年度は昨年度と比較すると、0.4%減少し、成果として順調ではない。年齢別に比較すると、年齢とともに参加率が増加している。環境に関する行事に参加している人の中で、地域の清掃活動に参加している人の割合が最も高い。

成果が向上する余地(可能性)は？ 大 中 小

成果向上のためにすべきこと、次年度への取り組み方針

東海市エコスクールで今年度も他課の環境学習をエコスクールとして開催したり、新しい講座を増やして、環境の関心を高めていく。
また、環境の関心を高めるために、メディア、広報紙等を使って、積極的に広報活動を行っていき、エコスクールの認知度を上げる。

3 参考資料

(1) 環境基本計画推進委員会委員名簿

役 職	所属部会	氏 名	区 分
委 員 長	社 会※1	早 川 宏 司	事業者を代表する者
副委員長(職務代理) 社会環境部会長	社 会	田 中 成 郎	事業者を代表する者
副委員長 生活環境部会長	生 活※2	若 杉 勇	事業者を代表する者
副委員長 廃・リ※3部会長	廃・リ※3	原 田 由 美	事業者を代表する者
社会環境部会 職務代理	社 会	寺 島 賀 子	市内に住所を有する者
委 員	社 会	秋 山 和 子	NPOを代表する者
〃	社 会	品 川 康 子	市内に住所を有する者
生活環境部会 職務代理	生 活	平 松 俊 彦	NPOを代表する者
委 員	生 活	追 分 僚 子	市内に住所を有する者
〃	生 活	吉 鶴 弥 生	市内に住所を有する者
〃	生 活	関 谷 茂 夫	NPOを代表する者
廃・リ部会 職務代理	廃・リ	古 谷 仁 彦	NPOを代表する者
委 員	廃・リ	森 岡 良 枝	NPOを代表する者
〃	廃・リ	毛 利 まり子	市内に住所を有する者
〃	廃・リ	吉 越 祐 人	事業者を代表する者
アドバイザー	—	千 頭 聡	学識経験者(日本福祉大学教授)

※1 社会は社会環境の略

※2 生活は生活環境の略

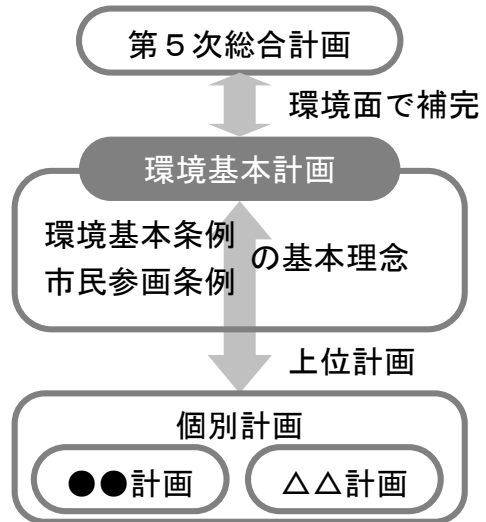
※3 廃・リは廃棄物・リサイクルの略

(2) 東海市環境基本計画について

1 計画の位置付け

東海市環境基本計画は、
第5次総合計画を環境面で補完し、
個別計画の環境面での上位計画と
なるものです。

また、環境基本条例の基本理念を
実現するための指針であり、同時に
市民参画条例で定める市民参画の
基本理念を実現するものでもあります。



2 計画の概要

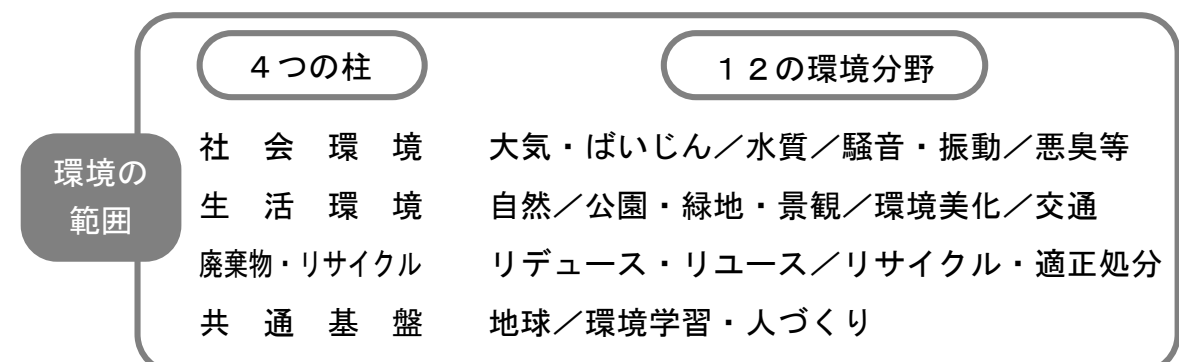
計画期間



将来人口



対象とする範囲



3 めざす環境ビジョン

環境
ビジョン

未来につなぐ 美しいふるさと東海

柱ごとの
ビジョン

社会環境 快適な環境で心豊かに暮らせるまちづくり

生活環境 自然を愛し環境を考え行動する
市民のふるさとづくり

廃棄物・
リサイクル もったいないから始まる未来
3Rのまちづくり

共通基盤 地球を考え地域から行動するまちづくり

4 協働・共創による計画策定

環境基本計画の策定に当たっては、市民の視点に立った協働・共創による計画作りのため、市民、事業者、NPOの代表からなる環境市民会議を設置しました。

環境基本計画の主要部分である環境ビジョン、柱・分野毎のビジョン、各分野の成果指標と目標値、推進体制などは、環境市民会議が市の意見を取り入れつつ設定したもので、協働・共創の理念を具体化した計画となっています。

5 協働・共創による計画の推進

環境基本計画を推進するため、市民、事業者、NPOの代表からなる環境基本計画推進委員会と、市の関係各課職員からなる環境基本計画庁内会議を設置しました。

推進委員会と庁内会議は、お互い意見や提案を交換しつつ、環境基本計画のビジョン実現のための具体的な事業について検討しています。

また、各分野ごとに設定している目標値の分析と成果向上のための方針なども推進委員会と庁内会議が意見を交換しつつ作成しており、計画の推進と進管理も市民、事業者、NPOと市の協働・共創により進めています。

平成25年度 東海市環境基本計画年次報告書

●編集

東海市 環境経済部 生活環境課
清掃センター
東海市環境基本計画推進委員会

●お問い合わせ先

東海市 環境経済部 生活環境課
〒476-8601 愛知県東海市中央町一丁目1番地
TEL 052-603-2211/0562-33-1111
FAX 052-603-6910
URL <http://www.city.tokai.lg.jp>
E-mail kankyou@city.tokai.lg.jp
